



「ふふっ、騎士くん、こんな強い陽射しじゃ、

しっかり日焼け止め塗らないとダメよう。」

うっ……ミツラ、こんな大胆なこと、ホントにやっちゃうの……？



「特に……この大事な部分、ミソラが丁寧にケアしてあげるわ」

そこ、こんな風に触るなんて……
心臓、ドキドキしすぎてバクバクしてるじゃない……!!



「日焼け止めを、ぬりぬりです」

「……そ、その。それであの……ぬりぬりのお手伝いを……」



「んふふ、騎士くん、こんなに硬くしちゃって…
ミミラの胸、こんな滑らかな感触、気持ちよすぎるぞじゅん。」

「んっ…はあ、兄様、こんなに…熱くて硬くて…!!」



「んっ…はあ、騎士くん、ミレラの中でこんなにビクビク脈打ってる…。我慢なんて無駄よ、さあ、早くイッちゃいなさい！」

「兄様、気持ちいいっりり、ちゃんと…悶めてる…」





「へえ、騎士くん、こんな早くイッちゃうなんて…
でも、ミソラ、こんな程度で満足しないわよっ…もっと楽しませてよね!」

「ふふ、兄様、気持ちよかったよね?
でも…リリ、もっと兄様のこと、しっかり愛したいな…!」



「リリちゃん、準備はいい？今度は騎士くんの全部、
たっぷり受け止めるから！」

「は…はい、新入部員として、一心不乱に尽力いたします。」



「んっ…ちゅっ、騎士くん、ミミラの胸、こんなに締め付けてるの…
感じるでしょっ。」

「んん…はあ、兄様、こんなに…熱くて…リリの胸、
兄様の…熱さでいっぱい…」



「ほら、もう我慢できないよね？」

「ミンナとリリの顔に…全部、ぶちまけなさい！」

「いーっ—」

くちゅくちゅ

くちゅくちゅ

ひびく

ひびく

「ふあ、兄様、もっと…リリに、ちようだい……」





「ふふ、騎士くん、こんなにたっぷり！ミソラの顔、
熱い『日焼け止め』で塗り尽くされたわ♪ミソラの魅力、完敗よね？」

「ふあ、兄様…リリの顔、こんなに…『日焼け止め』で…
恥ずかしいよ…でも、兄様のなら…大好き…！」

